

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第109号(2016.4.1)  
事務局川西地区自主防災会



こんにちは高松地方気象台です！！



この度、かがわ自主ぼう連絡協議会会報「防災・減災の輪」への寄稿依頼を頂きましたので、高松地方気象台での防災に関する取り組みの一部を紹介させて頂きます。

気象庁といえば、多くの皆さまが「天気予報」を思い浮かべるとと思いますが、気象庁は、国土交通省の外局として設置され、気象及び海洋や地震・火山に関する的確な情報を迅速に提供することによって、自然災害の防止・軽減をはじめ、国民生活の向上、交通安全の確保、産業の発展などを実現することを使命としています。

この使命を果たすため、常に最新の科学技術の成果を取り入れ、利用目的に応じた分かりやすい情報の作成・提供に努めています。

## 【気象台の沿革】

高松地方気象台は、昭和16年3月31日に高松測候所として、現在地（高松市伏石町）に創設されました。その後、昭和24年11月1日に高松地方気象台に改称されて、現在に至っています。

## 【気象台の業務内容】

高松地方気象台は、先にご紹介した気象庁の出先機関として、香川県を対象とした各種防災気象情報（注意報・警報など）や天気予報の発表、気象の観測などを行っている他、四国4県（香川県、徳島県、愛媛県、高知県）における、警報、注意報などの防災気象情報を統括する役割も担っています。

## 【気象災害ゼロをめざして】

平成26年8月豪雨をはじめ、近年の雨の降り方が局地化・集中化・激甚化していることなどを「新たなステージ」と捉えて、関係機関が危機感を持って防災・減災対策に取り組んでいます。また、平成23年3月の東日本大震災などの災害をきっかけとして、住民の皆さまへの自助・共助意識の啓発や防災教



育の重要性が政府の有識者会議などで報告されています。

これらを踏まえて、気象や地震などの自然現象に対して、住民の皆さまが自らの判断で的確な防災行動が取れるような風土・文化が醸成され、「気象災害ゼロ」となることを目標に、高松地方気象台では、安全知識の普及啓発や気象情報の利活用推進に関する出前講座や講演会、リーフレットやDVDの作成・配布などを行うなど、関係機関と連携・協力しながら地域の防災力向上への取組を推進しています。

#### 【気象庁ワークショップの紹介】

そこで、気象災害から身を守るためには、気象台が発表する警報や注意報などの防災情報のタイミングや意味を体系的に理解し、積極的に入手して活用することが必要です。加えて、自宅周辺にある危険箇所の有無や住居の構造、家族構成等によっても必要な対応が異なるため、それぞれの状況に応じシミュレーションを行うことが有効です。

気象庁では、グループ内での議論を中心としたコミュニケーションを活用し、深い理解を導く能動的な手法として「気象庁ワークショップ 今まで経験したことのない大雨そのときどうする？」（以下、「ワークショップ」という。）を開発しました。このワークショップを学校や自主防災組織などで実施いただくための運営マニュアルをホームページで公開して普及を図っています。



このワークショップでは、参加者が大雨による災害の種類と危険性、気象台から発表される防災情報の意味や発表のタイミング、入手方法、安全知識などのレクチャーを受けた後、数人のグループ毎に違う状況（周辺地形、住居構造、家族構成など）に応じた安全行動について話し合っまとめることで、安全知識や防災対応力向上への効果が期待できますので、ぜひ機会があればご活用ください。

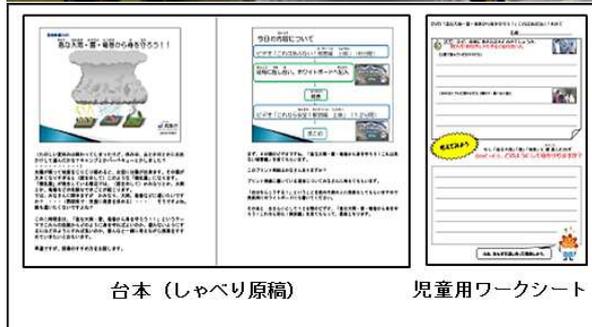
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jma-ws/index.html>

#### 【小学校高学年を対象としたミニワークショップの紹介】

積乱雲は「急な大雨」、「雷」、「竜巻」などの激しい現象を引き起こし、

これらの現象によって毎年のように死傷事故が起きています。気象庁

では、これらの現象から身を守る方法を知っていただくための防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」を公開しています。高松地方気象台では、「防災教育は先生が主役」をスローガンに、この啓発ビデオを防災教育教材として開発し、先生と生徒がともに考えながら短時間の授業コマで防災教育を実施できるよう支援しています。具体的には、大雨や地震、津波への対応などについての座学授業を45分行って生徒の皆さんに防災行動について理解して頂きます。次に対話形式のミニワークショップ授業を45分で行い、先生が進行役と専門家を兼ね、生徒自ら考えながら急な大雨・雷・竜巻から身を守る行動についてより理解を深めて頂きます。



このミニワークショップ授業は「これはあぶない！被害編」と「これなら安全！解説編」の2部構成となっています。「被害編」では、晴天に油断した子供たちが突然の落雷や竜巻などに次々と巻き込まれてしまいます。映像を見ることで、なぜ子供たちは危険な目にあってしまったのかを考えるきっかけを提供します。また、「解説編」では、被害編と同じドラマを再現しながら、積乱雲が近づいてきたサインがどこにあったのか、どうすれば身を守れるのかをCG博士が実験映像とともに解説する教材となっていて、とても理解しやすい内容です。なお、45分授業2回の対応ができない場合は、どちらかを選択いただくことも可能ですので、ご相談ください。

#### 【終わりに】

繰り返しになりますが、気象台では、気象情報を上手に利用し、自然現象から自らの判断で状況に応じた的確な行動をとることのできるような風土・文化を醸成することを基本目標に掲げ、防災気象情報をはじめとする気象・地震・津波などについての安全知識の普及啓発の取組を継続して実施することで、香川県における「気象災害ゼロ」を目指します。

## 離任のご挨拶

### 元香川県危機管理総局長 泉川 雅俊

この度の人事異動で、かがわ健康福祉機構（県社会福祉総合センター内）へ異動することになりました。皆様方には、2年の在任中大変お世話になり、厚くお礼を申し上げます。

この間、平成26年8月の広島市の豪雨災害をはじめ、全国各地で大規模な災害が続きました。中でも、同年11月に起こった長野県北部地震のニュース中継で、白馬村の地域の方々、消防団、警察などの皆さんの力を合わせた救出活動を視聴したことは、強く印象に残っています。この災害では、77棟の家屋が全壊する中、幸いにも亡くなった方がおらず、いざという時には、日頃からの地域の絆がかけがえのない命を救うことを実感しました。

かがわ自主ぼう連絡協議会が、昨年のジャパン・レジリエンス・アワード最優秀賞に続き、今年には防災まちづくり大賞の最高賞 総務大臣賞を受賞されたことは、地域に根ざした防災、減災活動が全国的に高く評価された証であり、深く敬意と感謝の意を表します。

私は、新しい職場でも、危機管理や地域の絆の大切さなど、ここで学んだことを生かすよう取り組みたいと考えています。

結びに、かがわ自主ぼう連絡協議会のますますのご発展と会員皆様方のご健康、ご多幸を心からお祈りして、お礼のご挨拶といたします。



### 元香川県危機管理総局次長 大西泰史

この度の人事異動により、土木部で勤務することになりました。平成27年4月に危機管理総局に配属後、1年間という短い期間ではございましたが、皆様方には大変お世話になりました。

この間、平成27年度中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練及び香川県総合防災訓練を皆様方のご協力を得て、多数の参加者のもと、計画どおり実施することができました。また、県民防災週間シンポジウム、シェイクアウト講演会等に多数ご参加いただき盛大に開催することができました。

平成28年度からは、地域防災力強化推進事業の中で、「自主防災アドバイザー派遣事業」、「自主防災組織広域化促進事業」等を実施し、自主防災組織の活動の充実・強化に取り組んでまいりますので、皆様方のご支援・ご協力をお願いいたします。私は、土木部におきましても、微力ながら、危機管理・防災・減災対策に取り組んでまいりますので、今後ともよろしくをお願いいたします。

元香川県危機管理総局危機管理課長 寺嶋賢治

4月1日から、交流推進課に異動になり、2年間という短い期間ではありましたが、皆様方には大変お世話になりました。

南海トラフ地震などの大規模災害に対応するためには、行政の力には限界があり、「地域は自分たちで守る」といった自主防災組織の役割は非常に大きくなっており、フォローアップ事業や何でも相談会などを通じて、地域防災力を高めていただいている「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様方には心から感謝申し上げます。

28年度からは、新たにアドバイザー派遣制度が始まりますが、引き続きご協力賜りますとともに、協議会のますますのご発展をご祈念申し上げます。

元香川県危機管理総局危機管理課 副主幹 藤川浩司

危機管理課で在職中は、防災ヘリコプターの運航管理を中心とした消防に関する業務に2年間携わった後、県民の防災意識を高めるための啓発業務に取り組む中で、1年間ではありますが、自主防災組織の活動状況を知ることができたことは、大変有意義なことでした。当課に配属されるまでは、自主防災組織が存在することすら知らなかったのが、防災・減災対策に関する皆様方の多大なご貢献に敬服するとともに、今後は、地域での活動に参加できればと考えています。

自主防災組織の運営や活動においては、様々な課題が山積しているとは思いますが、ぜひ、住民が活動に参加しやすい工夫をしていただき、地域の防災力向上になお一層ご尽力いただければと思います。

最後になりましたが、協議会のますますのご発展と、皆様方のご活躍をお祈り申し上げます。

元香川県危機管理総局危機管理課 副主幹 植松隆

平成25年4月に配属となり、3年間の業務の中で、自主防災組織の担当をさせていただきましたのは2年間という短い期間ではありましたが、自主防災組織の活動の発展にご尽力されておられる皆さま方と一緒にさせていただき、多くのことを学ぶことができ、とても充実した日々を過ごさせていただきました。

この度、危機管理課を去ることになりましたが、岩崎会長をはじめ会員の皆さま方のこれまでのご厚情に深く感謝申し上げます。

貴協議会の今後の益々のご発展と皆さま方のご活躍を祈念して、離任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

元香川県危機管理総局危機管理課 副主幹 香川泰弘

平成26年4月からの2年間、皆様方には大変お世話になりました。

私が主に担当したのは、地域防災計画など、県の防災対策の基本となる計画に関することでしたが、2年間で印象に残っている業務は、そういったものではなく、平成27年度に行った防災出前講座であり、それは「南海トラフ地震に関するDVD」を活用して、防災・減災対策を県民の皆様にご説明したのですが、あらためて啓発の大切さを感じました。

これから別の部署での勤務となりますが、引き続き防災・減災対策も意識しつつ仕事に取り組んでまいりたいと思います。本当にありがとうございました。

かがわ自主ぼう連絡協議会事務局より、お知らせです。

## 第20回防災まちづくり大賞 “総務大臣賞” 受賞！

我々ががわ自主ぼう連絡協議会が、第20回防災まちづくり大賞“総務大臣賞”を受賞いたしました！



平成28年3月4日（金）東京都千代田区「都市センターホテル」にて行われた表彰式に、会長岩崎、副会長中村、県危機管理課から藤沢主事さんの3名が出席し、土屋総務副大臣より、“総務大臣賞”をいただきました。

防災まちづくり大賞には、「総務大臣賞」「消防庁長官賞」、更に「日本防火・防災協会会長賞」とありますが、なかでも総務大臣賞は別格です。表彰会場、交流会場の中において、一目おかれる存在で、受賞団体にとっては、なかなか気持ちのよいものでありました。

受賞に至るまでを振りかえり、香川県殿のたゆまないご支援と、県内多くの自主防災関係者の活動のたまものだと思います。ここで紙面をお借りしてお礼と感謝を申し上げたいと思っています。

応募資料を作成するにあたって、非常に助かったのは、防災に対する取組みを机帳面に手帳に書き残しておいたことです。このデータが無ければ応募が不可能だったと思えます。何事も記録に残せと。45年前の上司の顔が久しぶりに浮んだ幸いです。

岩崎正朔

### 編集後記

今月の防災減災の輪は、高松地方気象台様に原稿をお寄せいただきました。ありがとうございました。防災まちづくり大賞“総務大臣賞”の受賞で皆様の活動が高く評価され、大変嬉しく思っております。重ねて厚くお礼申し上げます。